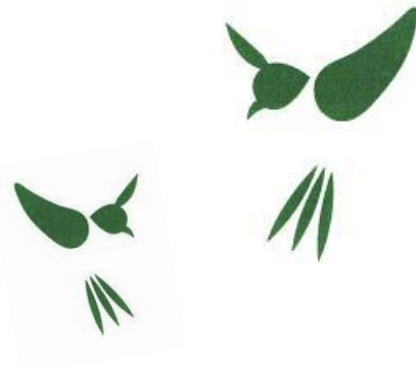


令和 6 年度（令和 5 年度対象）

教育に関する事務の管理及び 執行の状況の点検及び評価報告書



令和 6 年 9 月

松野町教育に関する事務の点検・評価委員会

教育に関する事務の点検及び評価について

1 評価委員会の概要

地方教育行政の組織および運営に関する法律第26条に基づき、松野町教育委員会が事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、そのことについて外部評価委員会が点検・評価を行って、報告書としてまとめる。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出する。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

＜評価委員＞ 長谷 信昭
山口 真理子
小野 榮子
池本 綾

＜委員会の開催状況＞

- 第1回 令和6年8月7日（水）「執行状況の点検・評価について協議」
第2回 令和6年8月23日（金）「執行状況の点検・評価について協議」
第3回 令和6年9月25日（水）「評価についてまとめ」

2 評価基準

施策が計画どおり <u>達成している</u>
施策が計画どおり <u>概ね達成している</u>
計画は未達成だが <u>達成に向かって進んでいる</u>
達成できず <u>課題がある</u>

3 評価

教育委員会実施の自己点検・評価については、概ね適正であると考えます。

自己点検評価について、報告書のとおり評価と意見を申し上げます。

教育環境が多様化する中で、「ふるさと松野を守り育てることのできる子どもを育む」という基本理念に基づいた新たな活動の創出が随所に認められます。今後も継続的に地域との連携を深め、人権尊重の心を育みながら、主体的な知力・体力の向上や郷土愛の醸成、広報活動のさらなる充実を望みます。

令和6年度（令和5年度対象）教育に関する事務の管理と執行状況の点検・評価

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評価 ○評価委員の意見
1 教育総務	○教育委員会の事務局として定例会や臨時会、総合教育会議を通常どおり開催することができた。	評価：達成している ○新型コロナウイルス感染症の5類移行後の動態が業務全般に反映されている。
2 学校教育の推進	○学校運営協議会を開催し、各学校の運営計画に対する委員の意見の集約や、学校運営状況等についての評価を受けた。 ○今年度から学校支援ボランティアの運用を開始し、学校教育活動全般にわたる支援を受けた。ボランティアには49名の登録があり、学校とボランティアの情報共有ツールとしてオープンチャットを開設し活用した。 ○外国語教育の充実のために外国語指導助手を2名配置し、保育園への派遣や低学年からの交流活動を実施した。 ○地域資源を活用した郷土学習として、東小学校では「おくうち棚田学」、西小学校では「森の国山城学」を実施した。 ○子どもたちのチャレンジ精神向上に資するため、漢字検定、算数検定、英語検定の初回検定料の公費負担を行った。 ○寄附金を財源に大型モニターをはじめとするICT機器を整備し、授業等で効果的に活用した。 ○リーディングDXスクール事業研究校（東小、中学校）として、一人一台端末を積極的に活用した授業実践を行った。 ◆情報機器の活用については教員間で差があるため、実践的な研修を行う必要がある。	評価：概ね達成している ○学校教育に関する新たな活動の創出が目立っている。 ○各種検定における児童・生徒の主体性の向上を図ってほしい。 ○生涯を通して体力の維持・向上は重要な課題であり、特に家庭内における取組が推進されるよう、働きかけていくべきではないか。

業 務 名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題）◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
3 生 涯 学 習 の 推 進	○第51期卒業生対象の成人式を1月3日に新庁舎にて開催した。 ○「松野町子ども読書活動推進計画（第二次）」を策定し、新庁舎や地区公民館における図書コーナーの充実並びに読み聞かせなどの読書活動の推進を図る。また、引き続き県立図書館の協力図書に取り組み、利用者の便益を図っている。 ○老朽化が進んだ吉野生公民館の建替工事を施工、年度末に竣工した。 ●公民館・分館事業については参加者の減少が著しく、簡素化や内容充実など既存事業の見直しが必要である。	評価：概ね達成している ○県立図書館との連携した取組や蔵書情報については、さらに広報活動を充実してほしい。 ○建替工事を行った吉野生公民館については、可能なスペースに図書等を置いてはどうか。
4 生 涯 ス ポ ー ツ の 推 進	○まつの桃源郷マラソン大会については、次年度から通常開催の方向で進めており、効率的かつ効果的な大会運営を目指す。 ○スポーツタウン事業の一環として、10月には奥内の棚田をコースにウォーキングイベントを実施し、文化財とスポーツの融合を図った。 ●分館対抗スポーツフェスティバルは、夏場の高温や各種行事との兼ね合いにより開催を中止した。次年度は時期を秋に変更して開催する予定である。 ○駅伝大会については、松野中学校から2チームがオープン参加し、久しぶりに9チームで開催することができ、沿道での応援も例年より多く盛り上がりを見せた。	評価：概ね達成している ○分館対抗スポーツフェスティバルの休止により子どもたちの体力づくりに支障が出ている。人数確保は大変であるが、地域単位で集まる機会を持つことも重要である。 ○ウォーキングイベント等の開催にあたっては、広報活動に工夫が必要である。 ○駅伝大会への新規参加者の反応も把握しておく必要がある。
5 人 権 ・ 同 和 教 育 の 推 進	○あおぞら子ども会では、引き続き地域の素材を人権の視点で捉え学びを深め、愛媛県人権教育協議会主催の「人権フォーラム」では武左衛門一揆をテーマに発表を行った。 ○森の国人権の集いでは、部落問題を中心とした人権課題を身近に捉えられるよう、保護者を対象とした事前アンケート調査を実施し、その結果を基にトークセッションを行った。 ○人権・同和教育市町訪問を開催し、本町の取組報告、グループワークを行い、愛媛県教育委員会並びに南予教育事務所の講評を受けた。 ●子ども会を核とした人権・同和教育の推進を図るため、引き続き住民への啓発活動及び行政職員の研修を拡充する必要がある。	評価：概ね達成している ○あおぞら子ども会は、参加者も多く充実した活動が行われている。 ○今後は大人の世代への積極的な人権啓発が必要ではないか。

業 務 名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題）◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
6 文 化 財 保 存 活 用 の 推 進	○町指定文化財として「芝家文書」の新規指定を行うとともに、森の国まつりの遺産として「富岡・河内神社参道の石段」、「富岡・河内神社の芝田勇治頌徳碑」、「富岡・河内神社の戦捷記念石」の3件を新規に認定した。 ○史跡河後森城跡環境整備事業のなかで、西部ゾーンにある西第十曲輪南部斜面の環境整備工事が完了し、来城者が史跡の価値を理解できるような施設整備を行うことができた。 ○奥内の棚田及び農山村景観について、ガイダンス施設整備のための設計業務や事前の周辺整備を実施することができた。 ○町内小学生を対象に郷土学習「森の国山城学」と「おくうち棚田学」を実施し、体験学習を通して地域の歴史文化に触れる機会になったと同時に郷土愛の醸成につながった。 ●史跡河後森城跡発掘調査成果の早期の取りまとめや重要文化的景観の整備・活用に関する事業の円滑な推進が急務となっており、さらなる専門職員の充実が必要である。 ◆文化財の学術的な調査成果については、より分かりやすい形で価値を伝えていくための継続的な取組が必要である。	評価：概ね達成している ○各学校との連携のもと、先人たちの苦労や努力に学びながら、ふるさとを知り、ふるさとに愛着を持つことができるような取組が行われている。
7 文 化 行 政 の 推 進	○森の国文化祭を開催した。各種作品展、芸能大会、教育文化展等を行い、会員等の日頃の文化活動の成果を発表する機会を持つことができた。 ●文化協会において、活動に対する補助事業を設けているが、これまでの利用実績が少なく、引き続き周知を図り団体の活性化に努めたい。 ○第70回不器男忌俳句大会を開催し、一般部門855句、高校生部門70句、中学生部門253句、小学生高学年部門638句、小学生低学年以下部門539句の投句を得た。当日は講演会のほか、各部門の句評、表彰等を実施した。 ○不器男記念館・目黒ふるさと館を中心に町内観光施設とも連携して「四万十街道ひなまつり」を実施した。不器男記念館では、ガラス製雛人形、打掛、保育園児の手作り雛人形等の展示を、目黒ふるさと館では、明治、大正、昭和、平成の雛人形の展示を行った。 ○不器男記念館では、専門家に活用企画業務を委託し、館内所蔵資料の調査・研究をはじめ、講座開催や来館者対応などの普及・啓発活動を行った。	評価：概ね達成している ○不器男記念館の活用企画業務では、専門家が加わることにより、より深い学びが得られるような活動が行われており、今後も継続を望む。